

カンボジア通信

カンボジア教育支援基金 (KEAF-Japan) 会報

2012年12月

65号



〒162-8433 東京都新宿区市谷本村町10-5
JICA地球ひろば気付

カンボジア教育支援基金事務局

info@keaf-japan.com
http://keaf-japan.com

「日本語教室」を10月中旬、「子どもの遊び教室」を11月下旬に開きました。どちらも昨年度に続いて2回目。現地の子どもや先生たちが大変喜んでくれました。

「日本語教室」

お盆にぶつかる時期でしたが、現地の日本語熱は高く、教室はどこでも一杯。子供たちと一緒に先生たちも熱心に受講してくれました。講師を務めてくれた川野サトミさんの次頁の報告を読んでください。



・教室は満席（プロモルプロム中学校）

「子どもの遊び教室」

昨年度は4つの小学校で開催。今回は11月18日出発、25日（日）帰国の日程で、プロモルプロム、プレイトープ、プラティアート、バンティチャクライの4中学校で開きました。

講師のユーカーリ福祉会・上野原保育園保育士・瀧川真理子さんと KEAF コーディネーターには次号会報に詳しい報告をお願いします。今号には写真報告を掲載します。



・綾とりを覚えた（バンティチャクライ中学校）



・生徒に交じってチェア・ソティ校長先生も
（タッコー中高校）



・折り紙でハートができた（プレイトープ中学校）

目を輝かせて学んでくれた

日本語教室に3日間で170人
大震災のお見舞いもらった

ボランティア・川野サトミ

(編集子から；新学年からの奨学金や支援品を子どもたちに届ける事務局・石山路子さんの現地訪問の機会に、石山さんの友人、川野サトミさんに「日本語教室」の講師をお願いしました。以下は川野さんの報告です)。

わたしたち2人は14日(日)早朝の飛行機に乗るため成田のホテルに前泊し、ホテルのバスで空港へ。思いがけず運転手さんが、お客さんに貰ったチップのドル札をカンパしてくれた。非常に有難く、幸先のいい旅立ちとなった。夕刻プノンペン着、通訳・ガイドのソワンさん、通訳・運転担当のニャット君の出迎えを受ける。

15日(月)の未明にシアヌーク前国王が中国・北京の病院で逝去の報道。カンボジア統合の象徴“独立の父”と呼ばれた前国王の死を全国民が悼んでいる様子がみてとれた。プノンペンの町のあちこちで白い花で飾られた遺影が見られた。国民は3カ月喪に服するとのこと。

午前中、明日から始まる学校訪問に備え、教科書等支援品の購入、「日本語教室」資料コピーを行う。午後はウナローム寺院に建立された石山幸基記者の慰霊碑と、ホテル・ロワイヤル前のグリーンベルトに設けられた「戦没ジャーナリスト」の慰霊碑にお参りする。(注；1970年代前半5年間のカンボジア戦争の取材中に石山記者をふくめて37人の国際ジャーナリストが亡くなった。会報64号参照)

16日(火)朝、車で現地に向けて出発。プノンペンを出て国道1号線へ。ネアクルーンでメコン川をフェリーで渡り、プレイヴェン州プレアスダイ地方に入る。いよいよ「日本語教室」がスタートした。

16日プロモルプロム高校70余名、17日コンポントゥラバイ高校40余名、18日タッコー高校50余名が参加。3日間の合計で受講者は約170人。

授業内容は従来どおり、あいさつ、数の数え方、自己紹介。日本語、ローマ字読み、クメール文字の訳を板書して発音していった。各教室とも時間的制約があり1時間～1時間半の授業であった。

対象者は高校生から小学生までとまちまちで、先生方も参加された。未熟で拙いわれわれの授業を熱心に受けてくれた。その学ぶ姿勢の真摯なことに心をうたれた。小学生が目をきらきらさせてノートを取り、緊張したり、はにかんだりしながらも楽しそうな様子にほっとする。校舎不足による2部授業、電灯のない教室等々、厳しい学習環境にあつて「学びたい!」という意欲を十分に感じられた。



右が川野さん、左は石山路子さん(タッコー高校で)

2日目からわれわれに対する質問をしてもらったが、東日本大震災の影響を心配して「地震の多い火山国でどのように生活しているのですか?」と聞かれた。地震のないカンボジアの人々にとってとても気にかかることのようにであった。

準備不足もあり、誠に未熟な授業だった。石山さんは板書に奮闘、ニャット君も一生懸命声を張り上げて通訳に奮闘してくれた。1人でも日本や日本語に関心を持つきっかけになればと願った。

19日(金)にソンボン小学校、プレイトープ小中学校、バンティチャクライ中学校に支援品を届け、プノンペンに戻った。20日(土)は帰国の飛行機出発までの時間にソワンさんとニャット君の母校プノンペン大学訪問。キャンパスで今年8月にプノンペン入りした日本語科教師の日本人女性と会う。

彼女は埼玉の公立中学校の教師を定年退職し、若い頃からの念願である外国で日本語を教えることを実現させたばかりという。定年後に外国で長年持ち続けた想いを遂げようとファイト満々な女性に脱帽、同じ日本人女性として誇らしく思った。

あつという間の訪問ながら、子どもたちと接して楽しく力をもらった日々でした。

《第14回総会報告》

カンボジア教育支援基金（KEAF-Japan）は11月11日（日）東京・新宿のJICA 地球ひろばで第14回総会を開き、2012年度（2011/9/1-2012/8/31）活動報告と決算報告および2013年度（2012/9/1-2013/8/31）活動計画と予算の承認を得ました。活動については会報『カンボジア通信』でお知らせしてきた通りです。決算報告と予算は以下に掲載しました。

2012年度決算報告

2012年度 決算

（自2011年9月1日～至2012年8月31日）

（円）

収 入 の 部			支 出 の 部		
	予算	決算		予算	決算
一般支援活動 年会費・寄付・ カンパ	1,270,000	1,211,070	一般支援活動 教科書・教材・ スポーツ用具支援 現地活動・事務費	1,696,200	1,164,258
奨学金 高校生 大学生	450,000	3,282,000	奨学金 高校生（90人） 大学生（4人）	830,000	629,166
助成金 日本語教室、 こども遊び教室、 天体観測教室、 サッカー教室	980,000	1,030,000	助成金 日本語教室、 こども遊び教室、 天体観測教室、 サッカー教室	980,000	1,030,000
収 入 合 計	2,700,000	5,523,070	支 出 合 計	3,506,200	2,823,424

当 期 収 支	-806,200	2,699,646
前 期 繰 越	3,626,464	3,937,754
次 期 繰 越	2,820,264	6,637,400

2013年度予算

2013年度 予算

（自2012年9月1日～至2013年8月31日）

（円）

	収入	支出
一般支援活動	1,270,000	1,925,800
奨学金 支出予算： 高校生106人、大学生5人	450,000	651,900
合 計	1,720,000	2,577,700
当 期 収 支	-857,700	
前 期 繰 越	6,637,400	
次 期 繰 越	5,779,700	

ありがとうございました

(2012年8月21日～2012年11月20日)

年会費、奨学金、寄付金(カンパ)をお振り込み下さった方々に厚くお礼を申し上げます

(敬称は略させていただきます)

※お名前は個人情報なので伏せて掲載しています ※写真つき奨学生紹介の4、5、6、7頁は個人情報保護のため省略

(東京)	(東京)	(福島)	(神奈川)	(千葉)
(兵庫)	(東京)	(兵庫)	(大阪)	(東京)
(神奈川)	(東京)	(神奈川)	(東京)	(奈良)
奈川)	(神奈川)	(神奈川)	(千葉)	(東京)
奈川)	(東京)	(長野)	(東京)	(東京)
奈川)	(東京)	(千葉)	(奈良)	(東京)
京)	(東京)	(千葉)	(長野)	(京都)
(神奈川)	(宮崎)	(東京)	(東京)	(東京)
玉)	(東京)	(神奈川)	(千葉)	(埼玉)

《サッカー・カンパ》のお願い

「サッカー教室」を支援してください

昨年度と同じ「サッカー教室」を今年度も開いてほしいとカンボジアの子どもたちが心待ちにしています。しかし今年度は東芝国際交流基金の助成が得られなかったため、経費の準備がありません。昨年コーチ役をお願いした渋川青翠高校の小林俊文先生は、学校から休みのとれる3月末なら行けますと言ってくれています。

「サッカー教室カンパ」として特別のご支援をいただければありがたく思います。

・プノンペンから国道1号線を車で1時間半ほど走るとメコン川をまたぐネアクルーンの町。対岸のプレイヴェン州へフェリーで10分。いつも満員で2-3隻待たされるのが普通。



《支援の品物ありがとうございました》

鉛筆 3,280本: (東京)。10月の現地訪問で第1回分500本を生徒たちに配りました。

《現地支援訪問》を体験してみませんか

「日本語教室」で川野さん(68)が初参加

10月の現地支援訪問では川野サトミさん(宮崎在住)に参加していただき、「日本語教室」の講師を務めてもらいました。川野さんがどんな体験をされたか、その報告は2頁に掲載されています。

皆さんが支援しているカンボジア農村の子どもたちや先生たち、学校や村の様子などを皆さん自身の目で見ていただけたらいいなと日ごろから思っています。まだカンボジアに行ったことのない方には「ぜひ」とお勧めします。ちなみに川野さんは68歳、同行の石山さんは67歳です。歳は関係なしです。

カンボジアは民族も歴史もユニークな国です。ごつい感じですが人懐っこいクメールの人々、貧しい農村と無秩序ながらも不思議なエネルギーに満ちて急成長を続ける首都プノンペンとのコントラスト。その機会にアンコールワット遺跡群の観光に足を伸ばすのもいいと思います。「面白そうだな」と思われる方はご相談ください。

KEAF-Japan 連絡先

Eメール 事務局 info@keaf-japan.com

金子 att-akaneko@gol.com

電話・Fax 金子 03-3418-7003